

関東甲信越支部長活動報告

2011年10月



支部長 上浪 寛

支部執行部からのメッセージ

UIA 大会から1ヶ月が過ぎました。一時は開催が危ぶまれていた時期もありましたが結果的に大成功と言ってよい結果でした。招待者を除いた国内の有料登録者数 2,700名の内、約2,200名はJIA会員が集めた登録者でしたが、この成功はJIA会員の底力を見せた成果だと思います。この大会はゴールではなく我々の活動の通過地点に過ぎません。来年度の新公益法人化に向けた新生JIAの出発点として、気持ちを新たにしていきたいと思います。

支部長活動報告

- 1日 UIA 東京大会・総会が成功裏の内に閉幕した。参加登録者 5,100名(内、招待者人数：国内500名、国外200名)、関連イベントを含めると数万人規模となり、一般メディアにも取り上げられた。参加登録者 5,100名の内、海外からの参加が約4割となり、合計110ヶ国から集まった事は、この時期に日本で開催したこの大会が、世界中の建築家から大きな関心を呼んだことがわかる。この日選出された UIA 新会長は閉幕記者会見で、UIA シカゴ大会で提唱された「sustainability」は今や世界中で一般言語として取り上げられる言葉だが、sustainabilityのためには資源の共有が必須で、「solidarity」が今更ながら取り上げられたことに驚くと同時に、今後重要なテーマになっていくだろう、と述べられた。
- 6日 世田谷区都市計画課主催の世田谷区都市復興プログラム研修会にJIA地域会で参加する。市民、行政、専門家（建築の専門家の他、司法書士、土地家屋調査士、中小企業診断士など）を含めてグループでのワークショップ形式で行う。全4回、一日がかりで開催される第1回目で、町歩きをしながらその後のワークショップとシンポジウムで研修していく。近い内に来ることが予想される大規模災害時に危険な場所を平時にチェックするのではなく、災害後2,3日後に町を歩いているという想像力を持って町歩きすることを求められる。市民、行政、専門家が普段からまちづくりを考える良いきっかけだと思う。芦原事務所で一万人の建築家展実行委員会が開催される。UIA 東京大会のガラスホール壁面へのパネル展示について、一般の人や各国建築家から大変な好評を得た。あ

- る中国人が勝手に自分のパネルを展示するというアクシデントまで起きた。現在約1,400名の登録があるが、協議の結果このサイトを継続し、一万人の建築家展示サイトに育てていくことに決める。今後とも「建築作品集」ではなく「建築家」が主体となったサイトというコンセプトは維持し、今後は作品（複数登録を可能とする予定）の位置情報を登録し、検索インターフェイスを充実させる予定で、各国建築家協会にも呼び掛けていく。
- 12日 馬淵元国土交通大臣にはUIA大会で「2050年の建築家」（職能シンポジウム）に向けてビデオメッセージを頂いたが、そのお礼を兼ねて馬淵事務所にUIA東京大会の報告にうかがう。夕刻、支部総務委員会に参加する。本部事務局改革に伴い、支部事務局改革を進めている。2008年度理事会で関東甲信越支部事務局が本部事務局と同フロアにあるのは本部への負担が大きという批判があり支部事務局が5階に移ったが、結果的に財政的に支部が本部財政を助けていたことが明らかになった。JIA全体の財政健全化のため支部事務局の配置も含めて見直すことにしている。来年の通常総会後に新しい事務局体制とすべく用意を進めている。2012年JIA全国大会準備委員会が開催される。9月に引き続き、第2回目となる。9月25日の理事会で横浜開催を報告している。式典及び基調講演では1,000名程度の集客能力が必要となるため、第2日目となる式典会場を中心に会場を当たったが、開催1年前ではほとんどの会場が埋まっている。9月中旬の芸術劇場か11月30日の県民ホールが候補に挙がっているが学会全国大会と重ならない11月で進めることにする。実行委員会の組織についてはUIA東京大会を参考に財務、学術、運営、広報の4部会制とし若手を中心とした実行体制を敷くことにする。UIA東京大会の経験から、4部会間の連絡を密にすることが大切なことだと実感している。
- 18日 午前中に2012年JIA全国大会第1回実行委員会を開催する。実行委員長を支部長とし、3人の副支部長と神奈川地域会会長を副実行委員長とする。4部会長は若手を中心とした支部執行部役員とし4副実行委員長と共に部会を纏める。大会委員長並びに大会顧問には神奈川地域会の先輩方をお願いした。11月中を目処に日程、会場、予算、テーマなどを確定していく。準備期間が短いため当面一月に2回のペースで実行委員会を開催する。午後より第195回理事会が開催される。UIA大会が成功裏に終わったことが報告される。来年のJIA全国大会についての報告を行い、11月29日～12月1日に開催することが承認される。臨時総会で定款改定が決議され、「支部・地域会規程WG」「会員・会費規程WG」を設けた特別委員会設置が承認される。珍しいことに、4時間半の予定が3時間で終了する。
- 19日 最後のUIA支部推進委員会が開催される。UIA大会に係わった人には得るものが大きかったと思う。満足感のある報告が各委員会から発言された。
- 21日 朝7時半より馬淵衆議院議員の朝食会に参加する。政治資金集めのパーティー

を行わないという馬淵議員の方針に従い、実費のみの会費だ。8月の代表選を終えた今の心境から懸案の国内、国際問題について幅広く語られた。11時より水戸で開催の常任幹事会に出席する。2012年JIA全国大会について協議する。1年という短い準備期間ではあるが、大風呂敷を広げない身の丈に合った大会を目指すこととする。予算規模は縮小しながらも参加人数は今まで上を目指す、横浜という場所柄を生かし市民を巻き込んだ大会としそのためには予算を取る、など。その後、地域サミットを開催。2012年JIA全国大会準備報告、UIA東京大会の報告をする。臨時総会への参加率を上げるため事務局、本部、支部、地域会で手分けして電話するなどして77%という出席率を確保したが、その手法について中野地域会から出された意見書について議論する。松浦顧問弁護士の意見を交えて説明した結果、電話による総会出席並びに書面表決の参加要請については概ね理解を得られたが、総会後の本部事務局による結果報告についてはもっと慎重にすべきだったことが指摘された。東京の会員については地域会に所属していない会員（約7割）への広報が一番の課題であった。その後、JIAの登録建築家制度と士会の専攻建築士制度の相互認証について議論する。登録建築家制度の目的である国家資格化の道に乗せるため「統括一級建築士」という名称で統合することが2会の間で協議されている。専攻建築士と一緒にあってUIA基準に合致するのか、近年のプロジェクト規模拡大に伴い広がっているデザインビルド等多様な発注形態に対応する必要がある、等様々な意見が出された。「2002年JIA基本政策会議報告書」並びに「2003年資格制度試行に向けて」にJIAが目指す資格制度について纏めてあるので、今一度読み返して議論すべきだろう。サミットの後、建築学会関東支部茨城支所・茨城県建築センター・茨城地域会主催の青木茂氏の講演並びに懇親会に皆で出席する。

- 22日 茨城地域会主催によるツアーに参加。夕方6時よりJIAに集まり2012年JIA大会運営並びに學術部会の合同打合せを行う。
- 25日 オール建設人ゴルフ大会（会長；芦原太郎）に参加。
- 26日 先週後半より上奥歯の激痛が続き、食事が取れず眠れない日々だったが、昨日のゴルフの後さらに酷くなり顔が大きく腫れる。国際委員会並びに夕刻より建築家会館大ホールで開催されたUIA大会5963会にやむなく欠席。
- 28日 今週初めからの治療のおかげでだいぶ顔の腫れが引いたが、相変わらず体調が優れず、支部賛助会員とのフレンズカップ参加をやむなく断念する。昼過ぎにゴルフ場に到着し懇親会に参加。UIA東京大会に協力して頂いた賛助会員の皆様に感謝の意を込めた挨拶を述べる。
- 31日 ようやく腫れが引き歯を抜くことができ、食べ物を少し噛めるようになる。日本建築士事務所協会連合会会長三栖邦博氏の藍綬褒章受章を祝う会に参加する。



支部長活動報告 2011年10月
2011年10月31日作成 上浪 寛



「一万人の建築家展」 <http://www.10000architects.com/>